

令和8年度四街道市民大学講座 講義録

2026年8月4日(火曜日)第2回講座

『野砲校の町』四街道の戦争遺跡をたどる

講師：日本大学法学部非常勤講師 榎澤 和夫 氏

榎澤先生は県立高校の教員としてご活躍された後、敬愛学園高等学校で非常勤講師を務められました。現在は日本大学法学部と淑徳大学人文学部で非常勤講師として、中学校や高校の社会科・地理歴史科の教員を養成するための講座を担当される傍ら、本市の市史編さん委員としてもご活躍されています。

講義では、明治時代から戦後まで軍隊とともに発展してきた四街道の歴史を詳しく解説していただきました。明治27年に総武鉄道四街道駅が開通した当時、駅周辺は人家もまばらな原野だったそうです。明治30年に下志津原の北方から陸軍野戦砲兵射撃学校(のちの陸軍野戦砲兵学校)が移転してくると、駅周辺の雑木林は切り開かれ、道路も整備され、飲食店や旅館、その他の商店も軒を連ねるようになったとのこと。さらに相次いで軍の施設がつくられた一方、演習場を拡大するための集落の移転などもあったそうです。

このような四街道の街の変遷を当時の地図と現在の地図を対比しながら、また今も残る戦争遺跡の紹介を交えながらわかりやすく解説していただきました。受講生の皆さんも地図を追いかけて熱心に聴講していました。

(作成：四街道市民大学運営委員)

